



25周年記念

商和会 の あゆみ

昭和50年10月19日

五日市町商和会

五日市町と商和会の沿革

多摩地方は初めばく然と東国又は吾妻と呼ばれた西武蔵の一部であった。古代武蔵野は大森林でそれが原始時代に半森林となり奈良朝には草原に変わって徳川の開墾時代を経て今日に至った。

徳川時代には天領として代官制度の下に治められ300年前の明歴3年に江戸の大火の際は奥多摩地方の木材を筏に組み江戸におくりその再建に協力した。五日市町はその名の示すとおり町の中心部の五日市に古くから市がたった。市の起源ははっきりしないがすでに戦国末期に村名を使はれているところをみても相当古くから起っていたものと思われる。秋川の溪口に立地する集落は山方と里方の物資の交換場所として適当であり毎月5と10のつく日つまり月6回定期の市がたった。また当地で生産された黒八丈は別名五日市としてその名は全国に知られ、木炭の取引量の多いことも関東西部で著名である。明治5年廃藩置県により神奈川県管轄に入り明治13年五日市村は五日市町となり、当時三多摩で町をとんでいたのは府中、八王子、青梅だけしかなかった。明治22年市町村制の施行に伴い五日市町と小中野村で五日市町に小和田、留原、高尾の三村で三ツ里村に館谷、入野、深沢の三村で明治村に山田、網代、伊奈、横沢、三内の5村で増戸村に乙津と養沢、両村で小宮村に（戸倉は旧村のまゝ）それぞれ形を改めて新発足した。その後大正7年五日市町と三ツ里村、明治村が合併して五日市町と大きくなり、さらに昭和30年町村合併促進法によって増戸村、五日市町、戸倉村、小宮村が合併して由緒ある町名の五日市となった。近年人口の都市集中化は著しく東京は過大都市となり三多摩にも伸び西多摩にも及んで来た。昭和三十七年首都圏整備計画による市街地開発地域に青梅、福生、羽村地区が指定を受け、昭和44年新都市計画法が五日市町にも指定された。右の計画にもとずき、都道一三二号線の拡幅が決定され古い宿場である五日市の町なみも大きくかわる事になり特に隣接市町村の人口増に共なう大型スーパー、デパートの進出に対処する等、商和会の今後には問題が山積されている。25周年をむかえ「土地のものは土地で」のスローガンを掲げて一大購売運動を起すと共に町の商業界が一つに結束して此の危機をのり超えて五日市町商業発展に寄与されたい。

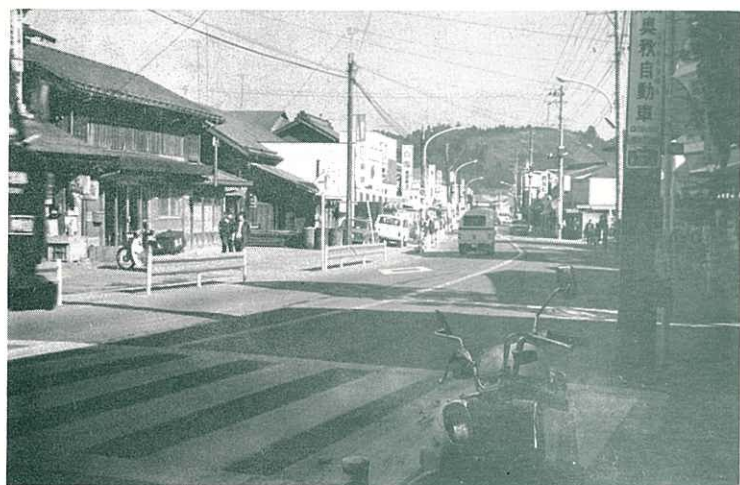
五日市町商店街全景



商店街の一部

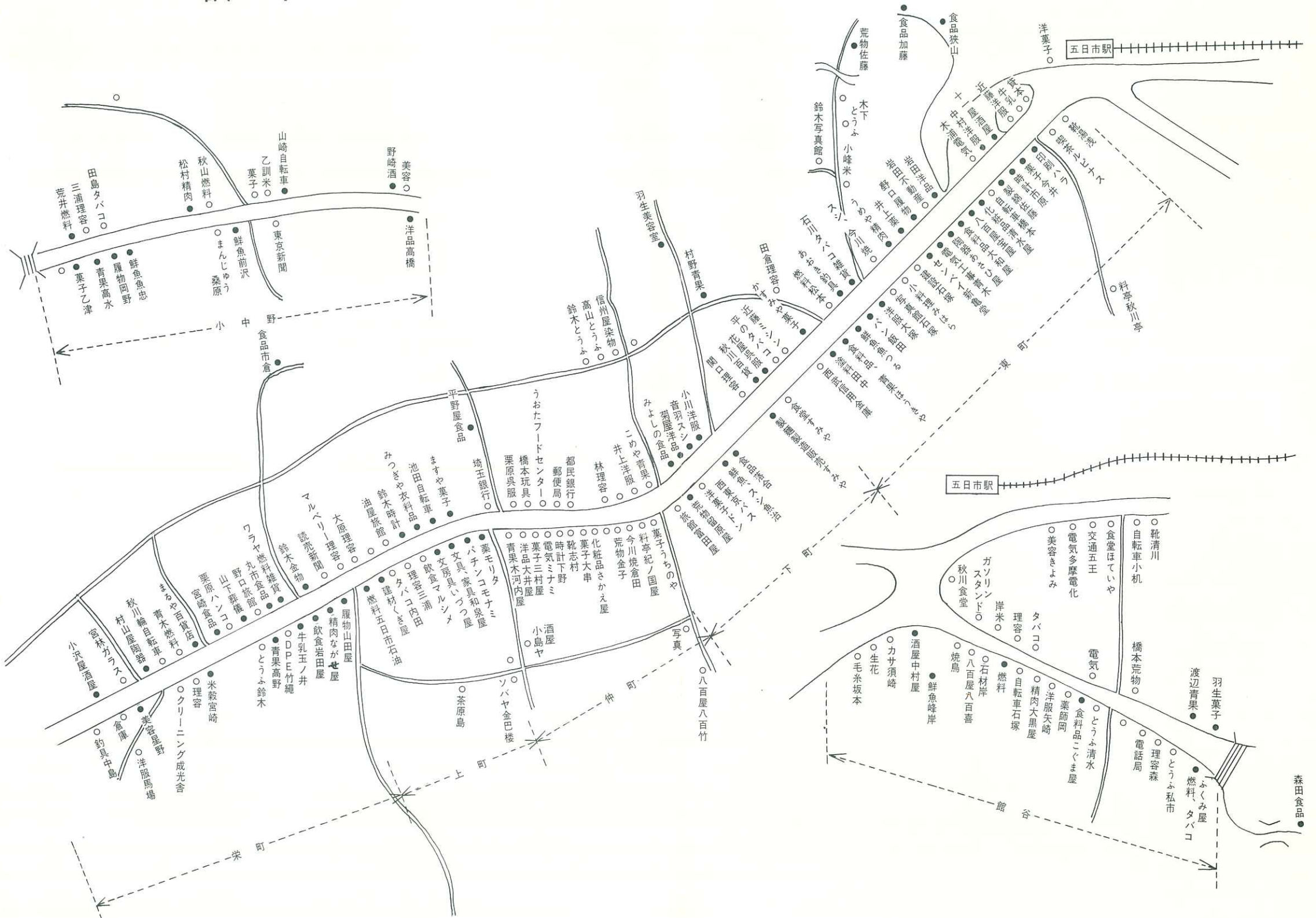


商店街の一部



昭和50年 五日市町商店街

●印 商和会加盟店



五日市町中央通り全景 (航空写真より) 昭和50年 8 月

下 町

駅 前



栄 町

下 町



昭和49年度の事業のあらまし・決算諸表

(昭和49年度事業報告書より抜すい)

概 況

新緑の頃となりました。会員の皆様には益々ご健勝にて大慶に存じます。さて昭和49年度の決算が終了しましたので事業の概況を御報告いたします。昭和49年度は物価も割合安定してまいりましたが国の総需要抑制のあおりを受けて景気もあまりよくない状態でしたが我が商和会においてはサービス券が御客様に非常な魅力が出て発行数の増加により会の運営も順調に進んでおりますことは誠に喜ばしい事です。

尚本年も引続き努力いたします。50年度は会発足以来25周年を迎えますので盛大なる記念事業を計画いたしたいと考えて居りますので会員の皆様方にも何かと協力をしていただく様になるかと思ひます其の節はよろしくお願い申し上げます。

尚本年も会長以下役員一同大いに頑張る決意です。

財 産 目 録

西武信用金庫出資金(2口)	20,000円
商和会館建設資金(定期預金)	739,590円
別途積立金(")	874,528円
役員退職積立金(")	506,865円
事業部特別積立金(")	5,539,958円
事業部別途積立金(")	3,000,000円
抽籤機(玉付)	2台
謄写版	1台
レコードプレーヤー	1台

事業部報告

49.4.12	事業部懇親会 奨励金配布	
4.21～24	京都奈良夜行 2泊招待	46名参加
5.18	サービス券加盟店 水上温泉一泊招待	44名参加
5.26	商和会通常総会 東町会館	47名参加
6.10～11	稲取どんつく祭り招待	41名参加
7.5～10	中元サービス券倍増大売出し	
7.18～19	上高地浅間温泉招待	40名参加
7.21	49年度下期招待旅行受付	
8.15～16	上諏訪湖上祭招待	46名参加
8.27	淡島母子組日帰り招待	46名参加
9.9～10	厚生部研修旅行天竜下り	48名参加
49.10.6.7.8	裏磐梯夜行 2泊招待	43名参加
11.4～5	西浦温泉招待	42名参加
12.3	秩父夜祭り招待	51名参加
12.15～25	歳末サービス券倍増大売出し	
50.1.20	成田山招待	45名参加
1.26	商和会新年会及厚生部勤続店員表彰	55名参加
3.16	50年度上期招待旅行受付	
3.26～27	房総鴨川温泉一泊招待	46名参加
金 融 部	五日市農協 第73回～76回 4回	
	都民銀行 月掛第12回	
	西武信用 中元 歳末 借出	
	明治生命 厚生年金集金無事終了	
厚 生 部	郵政省海外保険集金無事終了	
役 員 会	18回 延人員 205名	
部 会	120回 " 400名	
会 員	85店	

昭和49年度
決 算 表

1. 総務部

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費 ^{49年4月86店月} 50年3月84店300円	312,300	印刷事務用品費	32,650
祝金新年会・総会	29,000	総会新年会役員会	162,950
繰入金 金融部	250,000	雇人費役員手当	312,000
	150,000	慶弔費	35,000
前年度繰越金	81,655	振興費	4,000
西武信用株配当	1,360	研修費	179,109
雑入	7,000	部会費	12,000
普通預金利子	3,006	退職積立金	50,000
		改選費用	14,000
		次期繰越	32,612
合 計	834,321	合 計	834,321

2. 厚生部

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入 ^{正会員44名} 特別会員53名	124,700	勤続従業員表彰費	61,700
海外旅行保険集金手数料	248,906	事務用品費	11,800
旅行負担金	151,000	研修旅行費	679,940
雑収入	5,540	部会費	57,000
利息	1,747	次期繰越	212,224
前期繰越	490,771		
合 計	1,022,664	合 計	1,022,664

3. 金 融 部

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	内 訳	金 額	科 目	内 訳	金 額
奨 励 金	合 計	356,164	事務消耗品費	収入印紙・用紙代 会議費用	23,880
	五日市農協 73回～76回	18,035	部 会 費	会場費・人件費	26,500
	都民銀行月掛	115,445	繰 出 金	総 務 部 へ	250,000
	西武信用中元	70,118	貸 倒 準 備 金		100,000
	” 年 末	62,333	年 金 関 係 支 出 金		170,079
	” 月 掛	90,233		印 鑑 代 料 集 金 手 数	18,450
	受 取 利 息	西武・都民・農協	9,996		配 当 金
明治生命手数料	福 祉 年 金	170,079		別 途 積 立 金	73,029
前年度繰越金		61,412	次 年 度 繰 越 金		27,192
合 計		597,651	合 計		597,651

4. 事 業 部

(I) オレンジ色預り分(100枚券)

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 分 14,359枚×200円	2,956,771	回 収 券6,829枚×200円	1,365,800
利 子	118,910	翌 年 度 繰 越 分 7,530枚 翌 年 度 繰 越 金	1,709,881
合 計	3,075,681	合 計	3,075,681

(II) ブルーサービス券預り分(2円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
発行数8,189,200枚×2円	16,378,400	回 収 枚 数 5,249,500枚×2円	10,499,000
利 子	387,093		
前 年 度 繰 越 金	9,402,387	翌 年 度 繰 越 金	15,668,880
合 計	26,167,880	合 計	26,167,880

(Ⅲ) ブルーサービス券 (50銭)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
発 行 枚 数 8,179,800枚×0.50円	4,089,900円	加 盟 店 懇 親 旅 行 不 参 加 者・記 念 品 費	570,372円
発 行 中 元・歳 末 分 加 入 者 9,400×1円	9,400	お 客 様 招 待 分・負 担 金 10 回 分	1,016,104
サ ー ビ ス 加 盟 店 加 入 金 (3 店 舗)	15,000	中 元・歳 末 売 出 し 経 費	127,980
利 子	275,207	集 金 手 当 収 入 印 紙 代	180,920
雑 収 入 (台 紙・広 告 料) 6 店 舗 分	90,000	福 祉 関 係 負 担	67,610
前 年 度 繰 越 金	4,174,962	総 務 部 へ	150,000
		印 刷 費 (チ ラ シ・サ ー ビ ス 切 手・台 紙 外)	648,110
		部 会 費	78,000
		懇 親 会 費	23,060
		新 聞 折 込 料	46,800
		雑 費	19,220
		別 途 積 立 金	3,000,000
		翌 年 度 繰 越 金	2,726,293
合 計	8,654,469	合 計	8,654,469

5. 権田坂看板勘定

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前 年 度 繰 越 金	11,529円	電 灯 料 1 ヶ 年 間	2,230円
利 子	284	4 月 よ り 3 月 ま で	
合 計	11,813	合 計	2,230

差 引 残 金 9,583円 次 年 度 繰 越 金

商和会員經營組織別表

(昭和49年)

町内別	組織別	個 人	法 人	計	備 考
館 谷		9	1	10	
東 町		24	3	27	
下 町		9	3	12	
上 町		10	4	14	
栄 町		10	4	14	
小 中 野		7	3	10	
計		68	18	87	

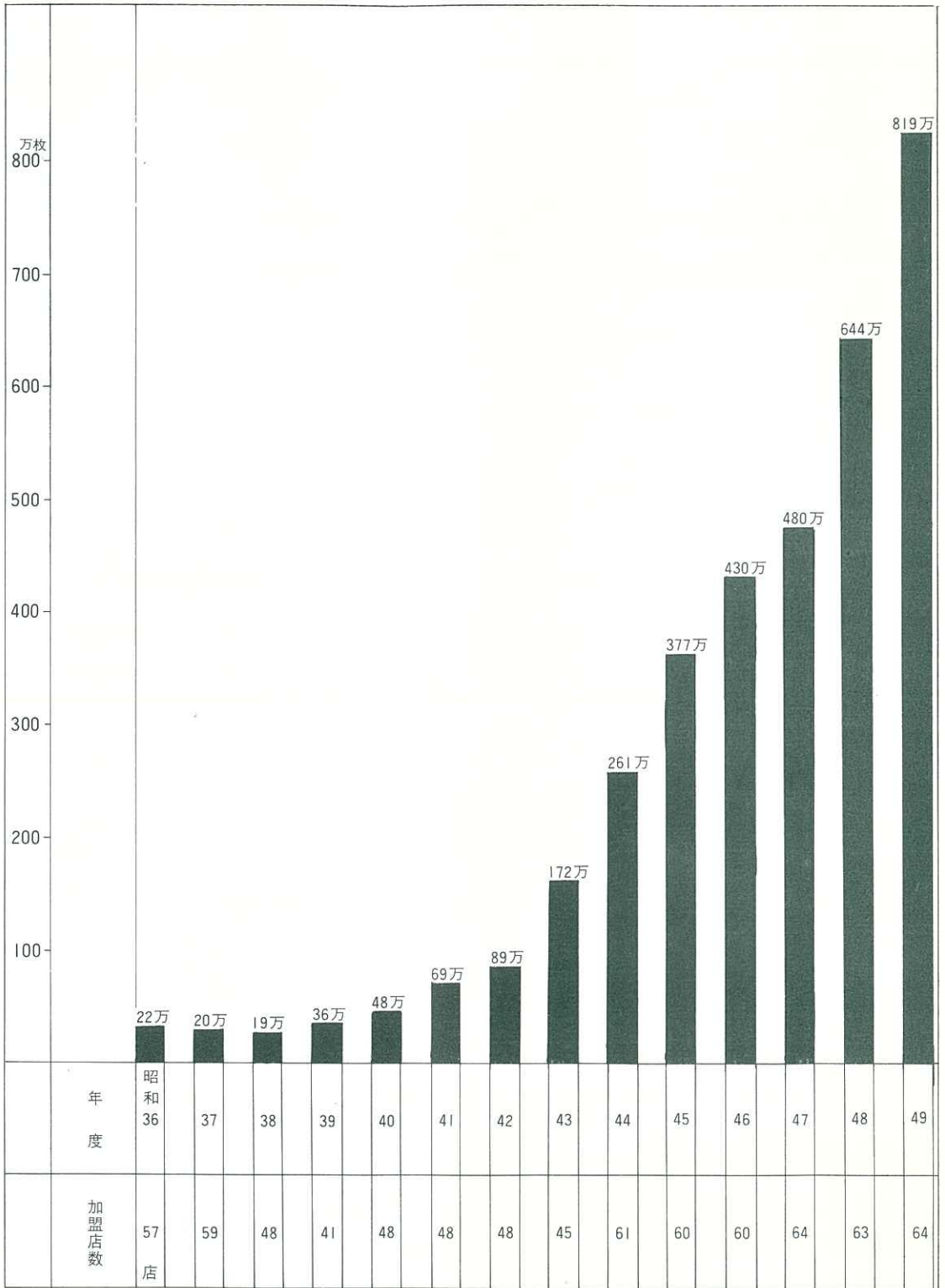
商和会員創業年度別表

町内別	年度別	明治以前	明治 1 明治 25	明治 26 明治 45	大 正 1 大 正 14	昭 和 1 昭 和 19	昭 和 20 昭 和 40	昭和41年 以 降	計
館 谷		1	0	0	1	0	5	3	10
東 町		1	1	1	2	9	10	3	27
下 町		1	0	1	0	3	7	0	12
上 町		2	0	2	3	2	5	0	14
栄 町		2	0	0	0	4	6	2	14
小 中 野		0	0	1	3	1	5	0	10
計		7	1	5	9	19	38	8	87

商和会員町内外販売表

町内別	販売%	町 内 1 0 0	町 内 80~99	町 内 50~79	町 内 30~49	町 内 10~29	町 内 0 ~ 9	計
館 谷		2	6	1	0	0	1	10
東 町		15	4	5	2	1	0	27
下 町		1	7	3	1	0	0	12
上 町		5	2	7	0	0	0	14
栄 町		1	5	4	3	1	0	14
小 中 野		2	2	6	0	0	0	10
計		26	26	26	6	2	1	87

年度別サービス券発行高



歴 代 会 長



小川 善右エ門
昭和26年商和会創立会長
昭和43年死亡



近藤 栄
昭和43年4月より昭和50年3月
まで前会長



乙戸 精一
昭和50年4月現会長

現 役 員 (昭和50年10月)

総 務 部	 小 峰 利三郎 副会長兼総務部長 役員就任 昭和26年	厚 生 部	 小 峰 己佳 厚生部長 役員就任 昭和26年
	 井 上 正次 総務部員 役員就任 昭和48年		 岡 野 利治 厚生部員 役員就任 昭和48年
	 森 橋 俊雄 総務部員 役員就任 昭和48年		 岸 政吉 厚生部員 役員就任 昭和40年
事 業 部	 岩 田 順一 事業部長 役員就任 昭和32年	金 融 部	 飯 田 延、夫 厚生部員 役員就任 昭和50年
	 市 川 鎌三 事業部員 役員就任 昭和37年		 笹 川 栄治 金融部長 役員就任 昭和26年
	 小 峰 秋太郎 事業部員 役員就任 昭和48年		 高 橋 陸夫 金融部員 役員就任 昭和37年
	 小 室 勘十郎 事業部員 役員就任 昭和30年		 鈴 木 賢 金融部員 役員就任 昭和48年

年 表

区別 年代	商 和 会 の で き ご と	町 の で き ご と
天正 2 年		五日市の名がつかわれた
承応 2 年	五日市に市が開かれる	五日市に市が開られた記録がある
明治 4 年		五日市郵便局出来る。西多摩郡は神奈川に入る
6 年		勸能学校出来る
13 年		五日市村が町になる。五日市憲法草案起草
16 年		五日市に大火があった
26 年		神奈川県より東京府に入る
27 年		青梅鉄道（立川－青梅）開通
大正 1 年		西多摩に電燈はじまる
9 年	電灯ともる	五王馬車（五日市－八王子）開通
10 年	和泉や、栗原、花屋福引売出しはじめる	五日市鉄道株式会社設立
11 年	五日市商和会として連合売出しはじまる17店	
11 年	" 年末売出し24店	
14 年		五日市鉄道（五日市－拝島）開通 五王バス（五日市－福生）開通
15 年		五日市警察出来る
昭和 3 年		大久野に浅野セメント工場ができる
5 年		五日市線立川迄のびる
9 年	五日市町商業組合設立（理事長 石川虎一郎）	
14 年	商業組合の売出し物資の統制により中止	
15 年	商業組合九州、福岡の大会で模範組合とし表彰うく	
19 年		都内爆撃され多くの人が移って来る
20 年	商業組合解散となる	太平洋戦争が終る
22 年	物資の統制もはずれ売出しはじまる	中学 3 年が義務教育となる
24 年	歳末連合売出しはじまる	
25 年		五日市高等学校設立
26 年	五日市町商和会設立 会長小川善右エ門	
26 年	街路灯の建設はじまる	
27 年	納涼の夕を盛大に行なう	
28 年	仲町会員脱退し銀座会をつくる	五日市保健所設立

区別 年度	商和会のできごと	町のできごと
昭和28年	6月中元資金の斡旋をはじめ	
30年	組織を改善部制をしき内部の強化と合理化をはかる	五日市、増戸、戸倉、小宮合併五日市町となる
33年	黄色い旗の会全国商店振興会に加入	山田に止水荘、高尾に焼却場出来る
33年	従業員部組織定休日毎月22日とする勤続従業員表彰実施	
33年	婦人部東日本民謡コンクール第2位となる	
34年	婦人部東日本民謡コンクール第1位となる	
34年	従業員部を厚生部変更	
35年	振興会のコンクール中止となり五日市町民集會場で大会を開く	乙津簡易水道ができる
35年	定休日を毎月8日、22日、月2回とする	
35年	野球部組織 社会科見学実施	
36年	全国商店振興会脱退サービス課設置	五日市線が電化となる
37年	商工会設立に本会代表発起人6名参画立川労政事務所主催野球大会に参加する	
38年	緑の券の引換が完了し、黄色い券の決済すむ	五日市統合中学校設立
39年	ローズ券の引換が完了。ブルー券が新らしく発行	小宮小学校設立
40年		五日市駅前に信号出来る
41年	権田坂に本会看板完成	戸倉浄水場できる
42年	新サービス券発行	自動電話になる
43年	東京12チャンネル町ぐるみワイドショー 小川会長死去	し尿処理場が秋多に出来る
44年	郵政省保険開始	有線放送電話ができる
45年	五日市銀座が商和会に合併を申込む	秋川消防組合設立
46年	ドルショックにより前途波多シ	五日市町営グラウンドできる
47年	奥多摩道路開通し車輛多く問題多シ	戸倉発電所閉鎖五日市に給食センターできる
48年	オイルショックに端を発し諸物資狂騰	増戸小学校に体育館できる
49年	不況にてお客のサイフはかたく前途多難	

会員の旅行記

年 度	行 き 先	参加人員	年 度	行 き 先	参加人員
昭和29年	伊豆大島、伊東	34 人	昭和42年	秩父、長瀨	41 人
30年	千葉県木更津海岸竇立	42 人	43年	白糸の滝、花島山脈	40 人
31年	筑波山、大洗海岸、那珂河魚釣	25 人	44年	箱根、真鶴	33 人
32年	伊東温泉魚つり	26 人	45年	表富士と吉田の火祭	44 人
33年	栃木県日光大祭	38 人	46年	伊東サボテン園	32 人
34年	延期		47年	熱川温泉	43 人
35年	静岡長岡あやめ祭	29 人	48年	長岡温泉	40 人
41年	城ヶ島	44 人	49年	水上温泉	44 人

安政2年の五日市町の人口

五日市地方各村高 家数人口

村名	村高(石)	家数(軒)	人口(人)
入野	109	35	137
横沢	42	26	136
伊奈	652	220	881
五日市	270	270	1,205
網代	55	23	133
乙津	255	119	704
深沢	45	25	133
高尾	81	31	129
小和田	67	50	270
山田	148	78	368
三内	115	60	306
小中野	84	55	291
留原	182	51	286
戸倉	224	144	812
館谷	40	18	102

(五日市町萩原家文書による)

西部他市町村との比較

区分 市町村名	大正9年10月1日				昭和5年10月1日			
	世帯数	総人口	男	女	世帯数	総人口	男	女
羽村	788	5,113	2,374	2,739	904	5,800	2,799	3,001
瑞穂	873	4,998	2,446	2,552	1,007	5,710	2,854	2,856
日の出	1,004	5,651	2,797	2,854	1,255	6,659	3,370	3,289
五日市	1,887	10,149	5,097	5,052	2,013	11,193	5,605	5,588
檜原	1,015	5,389	2,778	2,611	1,030	5,513	2,816	2,697
奥多摩	1,931	9,514	4,974	4,540	2,204	10,896	5,832	5,064
青梅	6,150	33,097	16,235	16,858		37,420	18,137	19,283
福生	833	5,031	2,325	2,706	1,024	6,005	2,969	3,036
秋川	1,554	9,214	4,424	4,790	1,717	9,934	4,853	5,081
合計	9,052	88,152	43,450	44,702	11,154	99,130	49,235	49,895

区分 市町村名		昭和 15 年 10 月 1 日				昭和 22 年 10 月 1 日			
		世帯数	総人口	男	女	世帯数	総人口	男	女
羽	村	963	5,878	2,936	2,942	1,467	8,200	4,077	4,123
瑞	穂	1,172	6,851	3,441	3,410	1,531	8,860	4,405	4,455
日	の 出	1,244	6,673	3,443	3,230	1,538	8,518	4,214	4,304
五	日 市	2,157	11,670	5,885	5,785	2,859	14,948	7,240	7,708
檜	原	1,018	5,693	3,000	2,693	1,157	6,642	3,490	3,152
奥	多 摩	2,453	12,543	6,783	5,760	2,884	14,734	7,565	7,169
青	梅	7,184	39,231	19,483	19,748		51,910	25,318	26,592
福	生	1,280	7,921	4,208	3,713				
秋	川	1,791	10,157	5,131	5,026	2,463	13,632	6,746	6,886
合	計	19,262	106,617	54,310	52,307	13,899	127,444	63,055	64,389

区分 市町村名		昭和 30 年 10 月 1 日				昭和 45 年 10 月 1 日			
		世帯数	総人口	男	女	世帯数	総人口	男	女
羽	村	1,887	10,104	5,052	5,052	5,679	22,784	12,125	10,659
瑞	穂	2,071	11,737	5,777	5,960	4,094	17,689	8,889	8,800
日	の 出	1,514	8,305	4,188	4,117	1,983	8,835	4,482	4,353
五	日 市	2,839	15,094	7,427	7,667	3,864	16,710	8,250	8,460
檜	原	1,099	5,940	3,051	2,889	1,105	5,036	2,529	2,507
奥	多 摩	2,953	15,594	8,146	7,448	2,715	11,732	5,814	5,918
青	梅	10,291	55,212	26,819	28,393	19,754	71,039	35,970	35,069
福	生	4,137	19,096	9,698	9,398	11,253	37,938	18,602	19,336
秋	川	2,516	13,835	6,975	6,860	6,877	28,344	14,602	13,742
合	計	29,307	154,917	77,133	77,784	57,324	220,108	111,264	108,844

昭和 49 年度 4 月

区分 市町村名	人 口				世帯数
	総 数	男	女	増 減	
五 日 市	18,180	9,080	9,100		4,752
日 の 出	11,108	5,633	5,475		2,968
檜 原	4,845	2,459	2,386		1,117
秋 川	37,517	19,081	18,436		10,804